



秋晴れの好天に恵まれた9月19日(土)、澄み渡る青空のもとで本校の運動会が行われました。今年のスローガンは、「綿っ子の絆(きずな)信じて 勝利をつかめ」です。赤城団(赤色)、榛名団(黄色)、妙義団(青色)に分かれて、団対抗により、優勝をめざして競い合いました。今年運動会は、例年にも増して各団が結束して、力を合わせてがんばりました。その結果、優勝したのは妙義団(395点)でした。準優勝の赤城団(355点)、三位の榛名団(320点)も、力はほぼ互角で、団対抗の種目ごとに、熱戦が繰り広げられました。

— 綿っ子の絆信じて 勝利をつかめ —

秋晴れのもとで行われた綿小運動会

来賓・保護者・地域の方々に見守られながら、児童による入場行進が行われました。開会式では、代表選手による選手宣誓が会場周辺に大きくこだましました。種目No.2の「ラジオ体操」では、会場の皆さんとの合同により、体操をして、一斉に体をほぐしました。

午前中の各学年の競技や徒競走は、見応えのある内容で、来賓席や観客席の皆さんからの熱のこもった声援があちこちから贈られていました。特に、今年学年種目の表現で、低学年・中学年・高学年に分かれて、大集団による華麗な演技を披露しました。低学年の「360°」、中学年の「R. Y. U. S. E. I」は、一人一人の児童が楽しく躍動感のある演技を表現することができました。

午前中の種目で盛り上がったところで、午前の部の最後に行われた表現「交流綿打ばやし」は、児童・保護者・来賓・地域の方々・職員の参加による大きな交流の輪ができました。今年も「綿打ばやし保存会」の皆さんをお手本にして、地域の伝統文化「綿打ばやし」を通じた交流が深められました。運動会前の9月9日(水)には、「綿打ばやし保存会」の方々による低学年(1~3年)児童へのご指導をいただきました。皆さんの懇切丁寧なご指導のおかげをもちまして、本番では、伸び伸びと踊ることができました。



【交流綿打ばやしの練習風景】



【鼓笛パレード】



【5・6年生、組体操2015】

美味しいお弁当をいただいたお昼休みを終え、午後のスタート種目は、運動会の花、伝統の「鼓笛パレード」でした。音楽クラブの皆さんによる鼓隊の先導により、5・6年生のリコーダー演奏による行進が加わり、運動会に花を添えることができました。今年は、10月4日(日)の「新田地区体育祭」においても綿打小学校の鼓笛隊が出演し、新田地区小学校3校の代表としての役割を立派に果たすことができました。

3年生以上の児童の参加による午後の種目も、内容が充実していて、とても見応えがありました。特に、5・6年生の表現「組体操2015「笑ってこらえて」」は、一人一人の力がみごとに結集しました。さすがは高学年、演技の見事さに、真剣な眼差しで見守る観客席の皆さんから惜しみない拍手が贈られていました。感動の場面は、運動会最後の得点種目、団対抗リレーで、盛り上がりの頂点に達しました。午前の1・2年生のリレーも合わせ、スローガン「綿っ子の絆信じて 勝利をつかめ」の思いをつなぐ、バトンがみごとにつながりました。

運動会の練習期間中から本番当日にかけて、地域の皆様には、放送等でたいへんお騒がせをいたしました。皆様のご理解とご協力に、心から感謝を申し上げます。また、ご多忙中にもかかわらず、運動会にお越しくださり、暖かいご声援をたくさんいただきました。皆様には、心からの敬意をもってお礼の言葉を申し上げます。たいへんありがとうございました。



～ 天沼公園の池の鯉 ～ ♪ 小さな鯉のメロディ ♪



綿打小学校の西方にある天沼公園の池には、鯉がたくさん元気に泳いでいます。休日に、パンを持って散歩に訪れることがしばしばあります。栈橋の上に立つと、鯉が群れを成して集まってきました。用意したパンを小さくちぎって、集まってきた鯉たちに投げ込むと、あっという間になくなります。

そんな休日のある日、天沼公園の池に立ち寄ったときのできごとです。

栈橋の上からパンを鯉にあげている小学生の女の子とお連れの方に出会いました。休日に、前橋からおばあちゃんの家を訪れ、おばあちゃんと一緒に天沼公園の池に来たとのことでした。女の子は、たくさんいる鯉の中でも、一匹のやや小振りの鯉をめざしてパンをあげようとしていました。でも、パンは、大きな鯉に食べられてしまい、小さな鯉には、なかなか食べてはもらえませんでした。パンをあげても、あげても、大きな鯉が勢いよく食べてしまい、小さな鯉に食べてもらうことができません。一気に投げ込めば、恐らくみんな大きな鯉たちに食べられてしまうのではないのでしょうか。女の子は、手にしたパンを少しずつ、小さな鯉にあげようとして必至です。女の子の心のやさしさが伝わってきました。

でも、パンは、小さな鯉には届きません。何という不条理でしょうか。だんだん、私には、大きな鯉がにくく思えるようになってきました。しかし、池の小さな鯉には、手が届きません。

私は、知らず識らずのうちに、女の子と小さな鯉に、心の中で「がんばれ！、がんばれ！」と応援していました。

この小さな鯉に名前をつけました。「メロディ」です。「小さな鯉のメロディ」です。

「女の子、がんばれ！ メロディ、がんばれ！」

私は、パンがなくなってしまったときのことが気になり、最後まで見届けられず、「さようなら」を告げてその場を後にしました。

その後、また、パンをあげに行ったとき、この日のことを思い出し、「小さな鯉のメロディ」がいらないかと捜しながら、天沼公園の鯉たちにパンをあげ続けています。

サン・ファン・パウティスタ号に乗った支倉常長

9月30日（水）の朝礼のときに話したことです。江戸時代の初め、仙台藩主の伊達政宗から命を受け、スペインとの通商を開くために、「慶長遣欧使節」として帆船「サン・ファン・パウティスタ号」に乗って石巻の港を出港、メキシコを経てスペインに渡り、スペイン国王とローマ法王に謁見した支倉常長について話しました。

支倉常長は、国王やローマ法王から歓待を受けましたが、通商を開くことはできず帰国しました。太平洋と大西洋の荒波を受けながらも、命をかけてアメリカとヨーロッパを帆船で航海し、帰国した支倉常長でしたが、そのときには、すでに江戸幕府の「鎖国令」が出された後でした。帰国をしてからの支倉常長の生活の様子については、はっきりとしてはいません。病気をしてもなく亡くなってしまったとか、静かに長生きをしたという説もあります。

彼が乗った「サン・ファン・パウティスタ号」が復元されて、仙台市の東、石巻市にあります。この復元船は、実際にカナダまで行って来たそうです。「東日本大震災」のときに、津波で流されそうになりましたが、壊れたマストが修理され、また見学できるようになりました。今、日本で最大の帆船がこの復元された「サン・ファン・パウティスタ号」です。サンファン広場には「夢をかなえる鐘」があります。先日、私は、この地を訪れ、この鐘を鳴らしました。



綿打小の子どもたちに、夢をかなえてほしいと願っています。【サン・ファン・パウティスタ号】